

An architectural rendering showing a perspective view of the Takatsuka Bridge. The bridge spans a wide river. On the left side of the bridge, there is a dedicated pedestrian path with a red surface and a metal railing. The right side of the bridge features a multi-lane road with cars and a dedicated bicycle lane. The riverbanks are landscaped with green grass and trees. The sky is clear and blue.

# 宝塚大橋の歩道空間整備計画

兵庫県阪神北県民局宝塚土木事務所

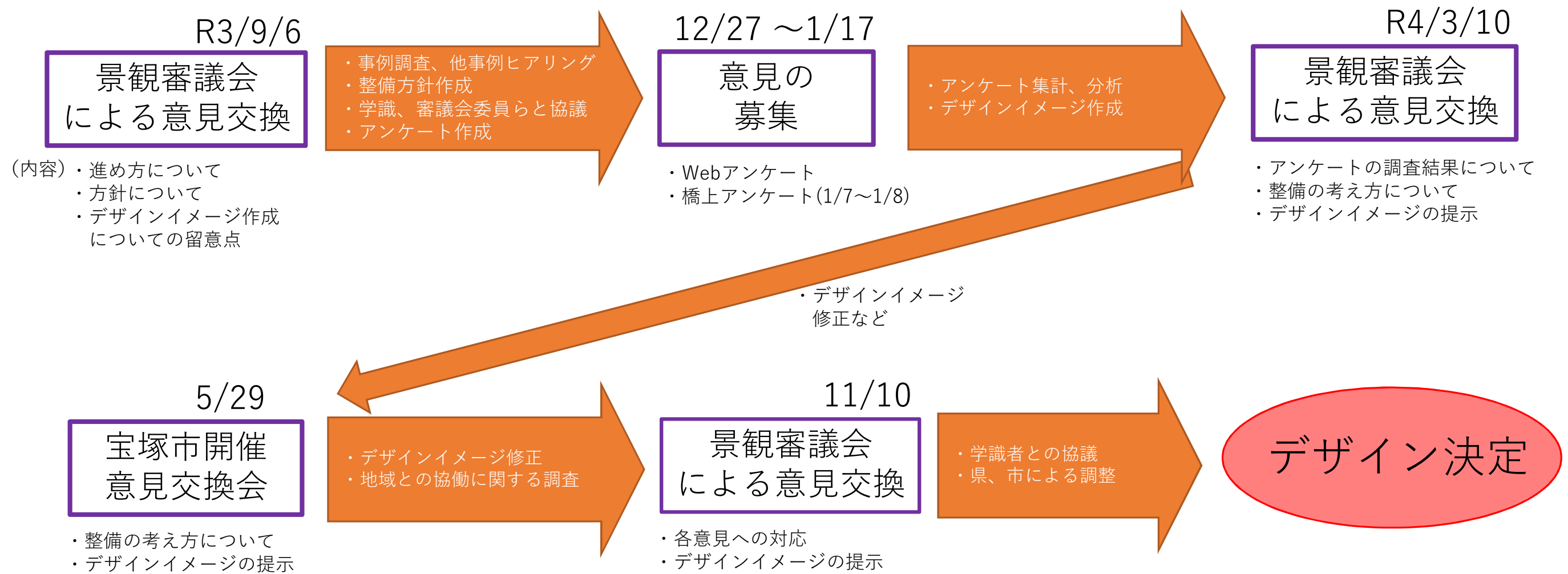
宝塚市

令和5年2月

# 内 容

- ① 検討の経緯
- ② 整備の考え方
- ③ 施設配置の考え方
- ④ デザインイメージ
- ⑤ 植栽のゾーニング、樹種
- ⑥ 材質・色・形状等

# ① 検討の経緯



■上位計画

●第6次宝塚市総合計画 ～めざすまちの姿～

道路・交通「歩行者や車両にとって安全で快適な道路空間の整備が進むとともに、生活を支える移動手段が確保されている。」

都市景観「北部地域の田園・農村景観、山並みを背景とした自然景観、文化を感じる街並み景観が調和した宝塚らしさを感じる景観が保たれ、魅力を増している。」

観光「既存の地域資源が活用されるとともに、新たな魅力も創出され、その魅力が市内外・国外に伝わり、訪れる人が増えている。」

●宝塚市都市計画マスタープラン原案（2020）～土地利用の方針～

公共空間の柔軟な活用のための取組により歩行者の回遊性や滞在性の向上を図り、新たな魅力づくりと都市型観光商業地としてのポテンシャル向上に努める。

●阪神地域都市計画区域マスタープラン（2021）

都市施設に関する方針として、「ひょうごインフラ・メンテナンス 10 箇年計画」等に基づき計画的な都市基盤施設の長寿命化に向けた修繕・更新を推進する

■課題（経緯含む）

- ① 歴史・文化特性を踏まえたプロムナードとしての整備
- ② 周辺観光施設の移転や閉鎖による土地利用の変化 [宝塚ホテルの移転、宝塚ファミリーランドの閉鎖]
- ③ 周辺の集合住宅開発などによる歩行者利用の増加や移動方法の変化に伴う通行安全性 [自転車の増加]
- ④ 老朽化した道路施設の維持管理 [噴水の故障、タイルの割れ]
- ⑤ 武庫川との更なる調和・宝塚大橋周辺の新たな魅力作り
- ⑥ 既存修景施設の活用如何 [彫刻、手塚パル]

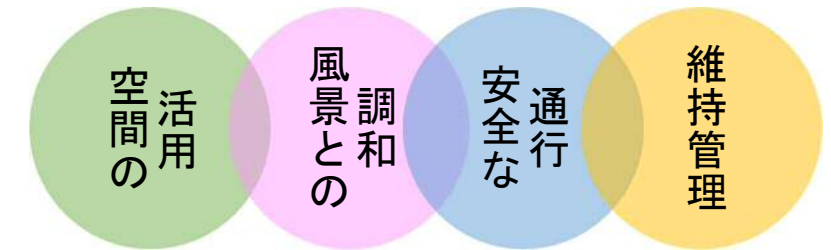
■要望書、意見（抜粋）

- ① 従前の景観を復元してほしい
- ② 40年前、市広報にて「男性の手のひらにのった女性が大空に向かって人類に愛の手をさしのべている姿」と紹介され女性蔑視として問題となったオブジェ（愛の手）の再設置は反対
- ③ 過度な整備費用はかけないでほしい
- ④ 歩行者と自転車の通行を分けて欲しい
- ⑤ 橋銘板は残してほしい

■景観審議会意見（抜粋）

- ① コンセプトとイメージが重要
- ② 緑の連続性を確保
- ③ 彫刻の有無ではなく、どのような空間にするのか。武庫川一帯をどのような空間にするかが重要
- ④ 人物像と抽象的な彫刻を同じ橋に乗せるにはデザインに力が必要  
見たくないものを見ない権利もある
- ⑤ 橋が美しいかではなく、橋を使ってどの様に楽しみ、どの様に一番宝塚らしいと言われる周辺の景色を眺められるかが大切
- ⑥ 使いながらデザインしていったらどうか。皆で育てていく橋は景観的に最先端
- ⑦ これまで愛されてきた橋。全く同じように作るのは時代に合わないが、元のイメージを継承してはどうか
- ⑧ 委縮せず、思い切って若い力で、40年経った年りのフレッシュさも感じられるよう

「4視点」



■整備方針

1. にぎわいを育む橋

- ・宝塚南口駅から大劇場周辺施設への導きを可能とするしくみ
- ・橋詰部に多機能広場環境を整備
- ・観光プロムナード全体の調和をはかる整備
- ・にぎわいの場として歩道空間を活用できるしくみ作り

2. 立ち寄りたくなる橋

- ・宝塚の風景に調和した歩道空間
- ・宝塚の代表的景観を演出する歩道空間
- ・橋上からまわりの風景が楽しめる歩道空間
- ・安らぎを感じる「みどり」のある歩道空間

3. 利用者が安心して通行できる橋

- ・今の利用状況に対応した通行安全性の確保
- ・災害時にも頼れる安全な道路機能の確保

4. 長く使い続けることができる橋

- ・老朽化に対応したメンテナンスの実施
- ・維持管理を考慮した施設の採用と配置
- ・SDGsの推進

コンセプト：「景観を楽しみ、使い育てる橋」

「景観形成と通行安全の確保」

- ・上流側は滞留空間を重視
- ・下流側は通行空間を重視

「地域の意見を踏まえた整備」

- ・宝塚景観審議会による有識者との意見交換
- ・アンケート調査による意見聴取（12/27～1/17 実施：約 1,900 件回答）
- ・意見交換会による意見聴取（5/29 開催予定）

「パートナーシップによる景観の保全・育成」

- ・地域、宝塚歌劇、手塚治虫記念館、植木産業等との協働の取組を協議、検討

整備方針

1. にぎわいを育む橋

- ・南口駅から劇場方面に導くしくみ
- ・橋詰部に多機能広場環境を整備
- ・観光プロムナード全体の調和をはかる整備

2. 立ち寄りたくなる橋

- ・宝塚の風景に調和した歩道空間
- ・宝塚の代表的景観を演出する歩道空間
- ・橋上からまわりの風景が楽しめる歩道空間
- ・安らぎを感じる「みどり」のある歩道空間

3. 利用者が安心して  
通行できる橋

- ・今の利用状況に対応した通行安全性確保
- ・災害時にも頼れる安全な道路機能の確保

4. 長く使い続けること  
ができる橋

- ・老朽化に対応したメンテナンスの実施
- ・維持管理を考慮した施設の採用と配置
- ・SDGs の推進

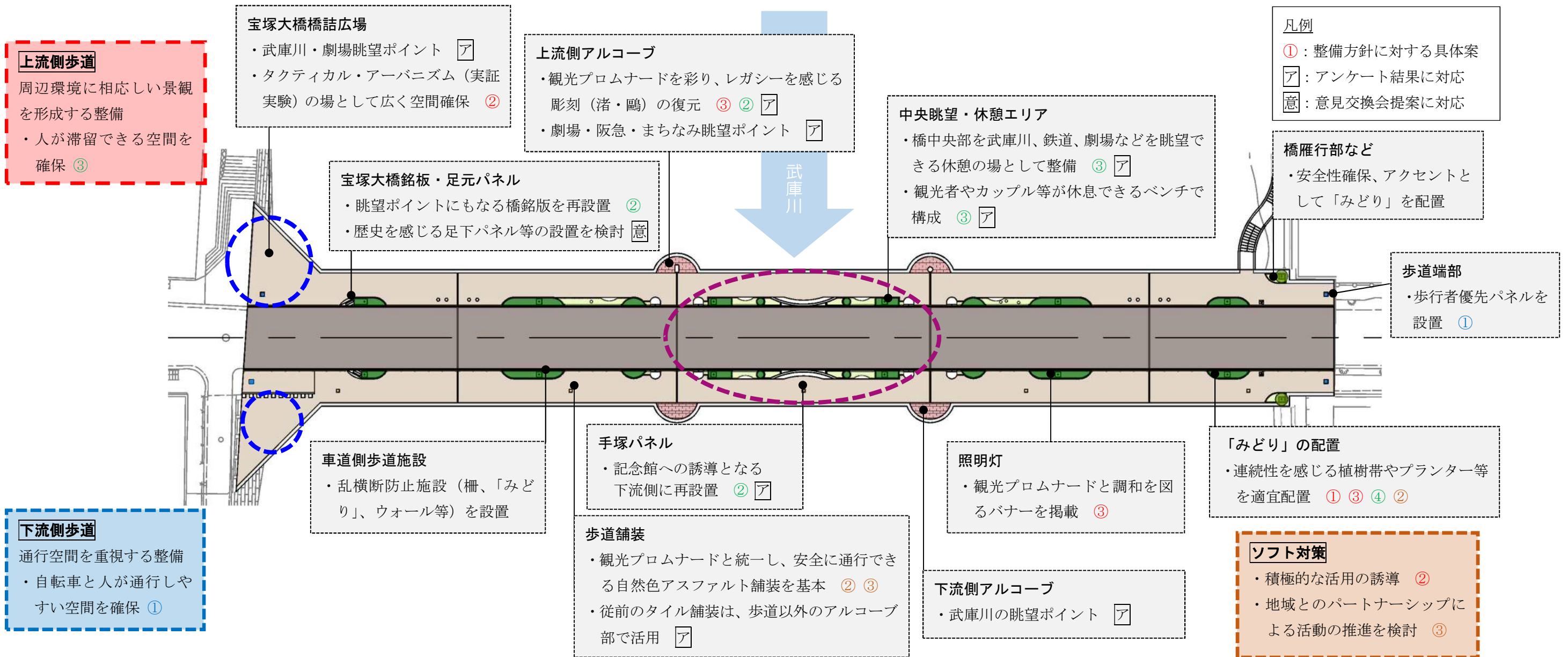
具体策

- ① 連続性を感じる橋上緑地帯等の整備
- ② タクティカル・アーバンズム（実証実験）の場としての空間確保
- ③ 「みどり」・彫刻・パネル等による調和

- ① 風景になじむ色彩による調和
- ② 彫刻「渚」、「鷗」や手塚パネル等の再設置等
- ③ 眺望を楽しみ、休憩談笑できるベンチ等の設置
- ④ 維持管理を考慮した「みどり」の配置

- ① 周辺利用者の増加を考慮した歩道幅の確保等
- ② 橋梁の補修による長寿命化と耐震化

- ① 橋梁の維持修繕と点検の実施
- ② 修繕しやすい舗装材や維持管理を考慮した「みどり」の活用
- ③ 歩道の拡幅による交通の安全性改善、災害に対する強靱さの向上、地域とのパートナーシップによる活動の推進



＜上流側＞滞留空間を重視

(宝塚大劇場や阪急電車など周辺の景観を鑑賞するために滞留できる空間を確保)



橋詰め広場

・タクティカル・アーバニズムの場の創出

舗装

・「観光プロムナード」の歩道と同一の洗出し舗装



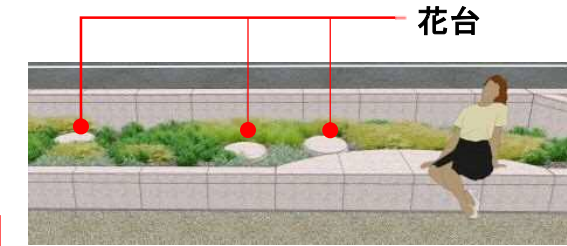
彫刻「渚」



彫刻「鷗」



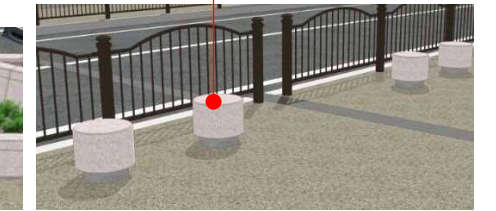
センターウォール  
・眺望エリアの創出



花台・ベンチ

・植栽帯と連続し、曲線を活用  
・タクティカル・アーバニズムの場の創出

花台利用が可能なスツール



スツール

通行幅 3.5m

通行幅 3.5m

右岸

左岸

5.0m

手塚パネル



手塚パネル



手塚パネル



手塚パネル



照明灯



手塚パネル



歩行者優先パネル

・自転車の走行マナー啓発のため、橋面に設置



歩行者優先

植栽帯、ツリーシリンダー

・カラーリーフや常緑樹種を配置  
・曲線を活用し色調は周辺施設にあわせる



アルコーブ部(レンガタイル舗装)

・武庫川を見渡せる眺望スポットの創出



＜下流側＞通行空間を重視

(歩行者、自転車の通行量が多いため、通行の安全を確保)

凡 例	
	自然石舗装
	レンガタイル舗装
	照明灯(既設)
	中木
	低木
	地被等

デザインイメージ



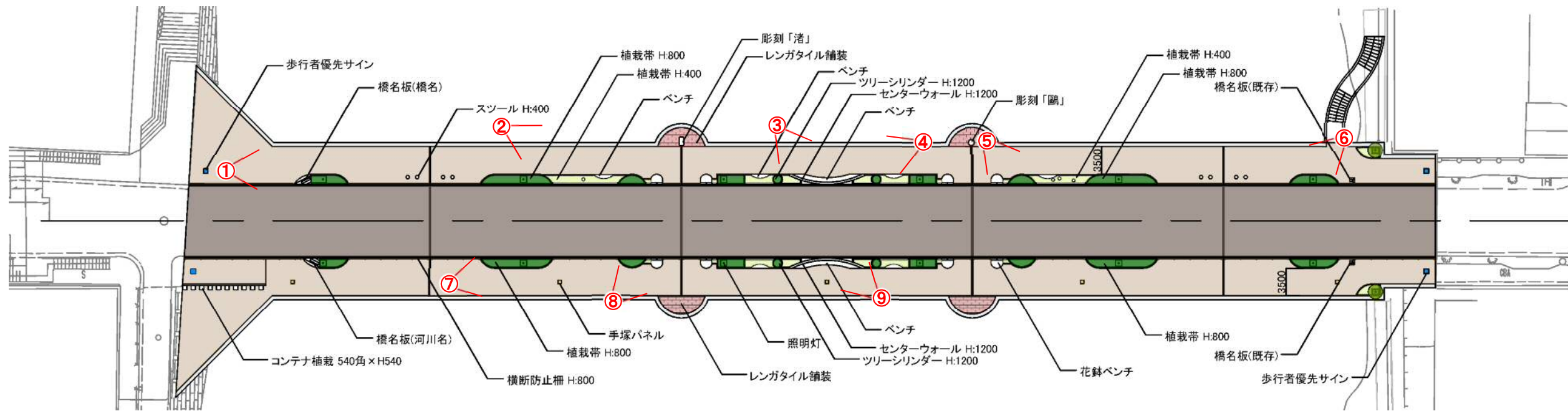


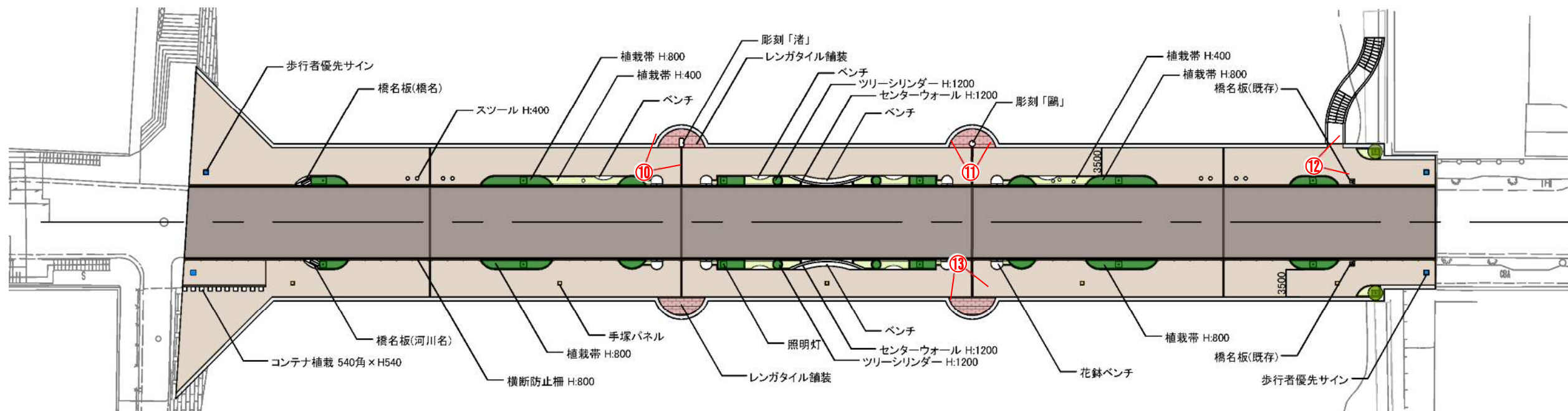
上流側





下流側



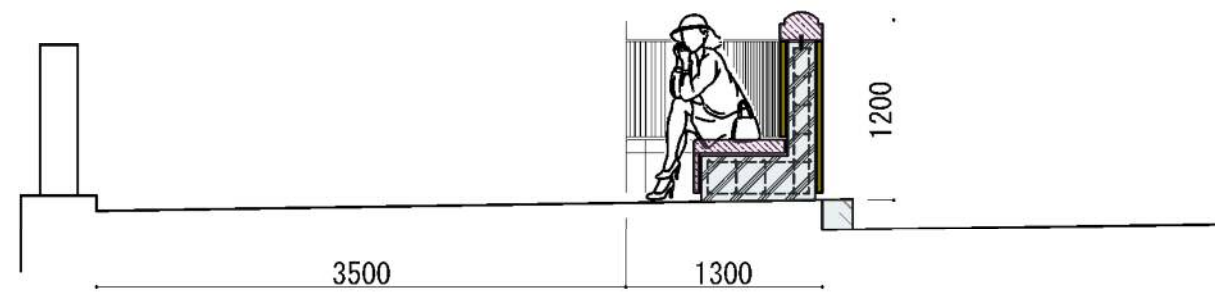




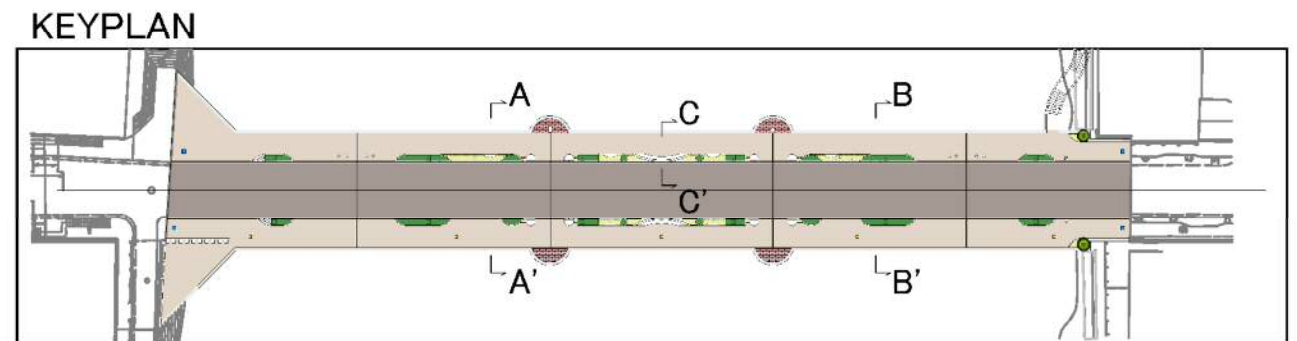
A-A' 断面図



B-B' 断面図

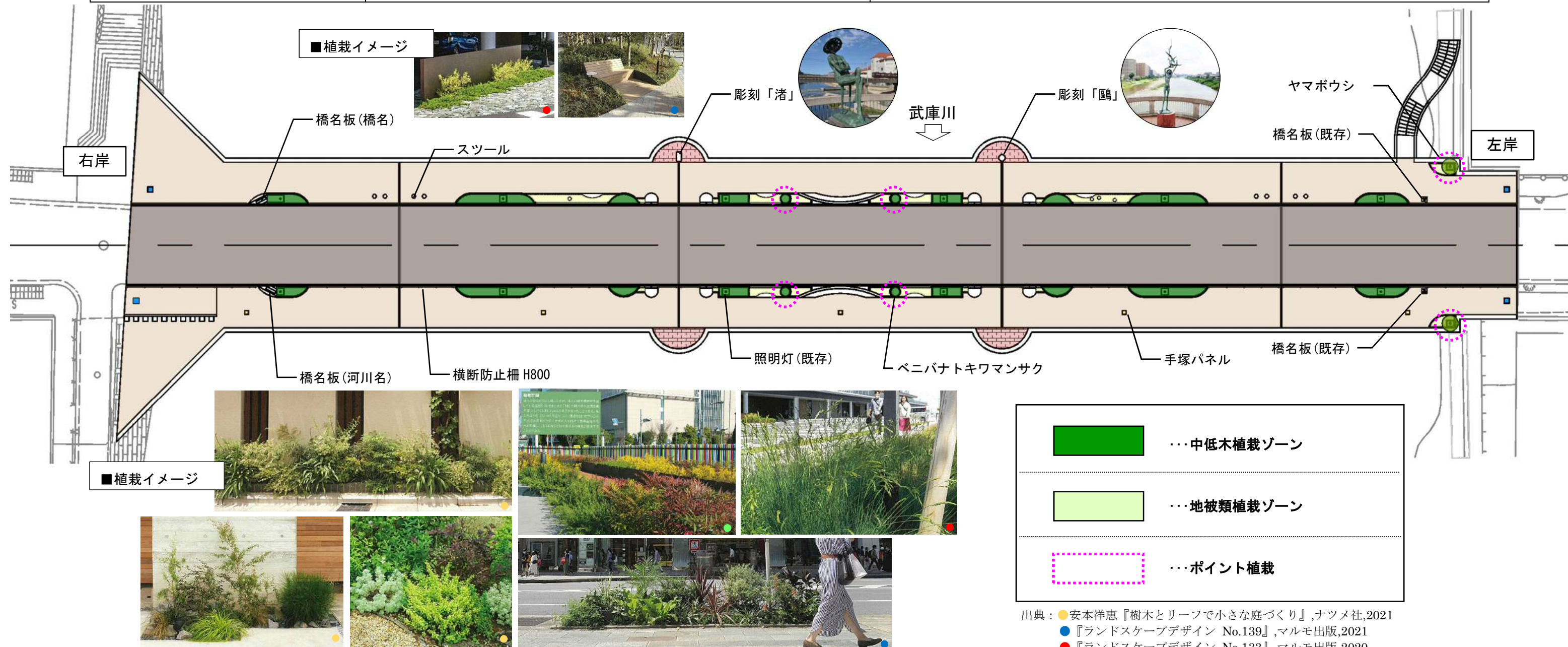


C-C' 断面図



デザイン案のような宿根草を基本としても、景観の維持には管理が大切なため、ボランティア等の協力者を探す。ただし、見つからない場合は、育ちが遅めのアベリア等行政主体でも管理可能な樹種とする。

ゾーン名称	内容	植栽構成・候補樹種
1. 中低木植栽ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●車両の景観圧緩和や緑の連続性を確保する植栽</li> <li>●葉の色使いとボリュームで演出できる樹種構成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多年生カラーリーフ（オーナメンタルグラス等）と常緑低木主体</li> <li>・ニューサイラン、コルディリネ、カレックス類、フェスツカ・グラウカ、シロタエギク、ビヤクシン類（フィリフェラオーレア、バー・ハーバー等）アガパンサス、アルメリア、マサキ（キンマサキ）、ベニバナシャリンバイ、ホソバヒイラギナンテン、オタフクナンテン等</li> </ul>
2. 地被類植栽ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●構造物基礎を遮蔽する修景機能を持った植栽</li> <li>●乾燥に強く、薄い土壌厚さでも生育可能な樹種構成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●常緑地被類主体</li> <li>・ヘメロカリス、フィリヤブラン、ジャノヒゲ、シバザクラ、ヘデラ・ヘリックス、マツバギク、セダム、芝等</li> </ul>
3. ポイント植栽	<ul style="list-style-type: none"> <li>●宝塚らしいシンボリックで目を引く演出植栽</li> <li>●葉色と花で魅せる強健な樹種構成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中木程度までで表現</li> <li>・ヤマボウシ(市の木)、ベニバナトキワマンサク</li> </ul>



■ 植栽イメージ

● 中低木植栽ゾーン

● 地被類植栽ゾーン

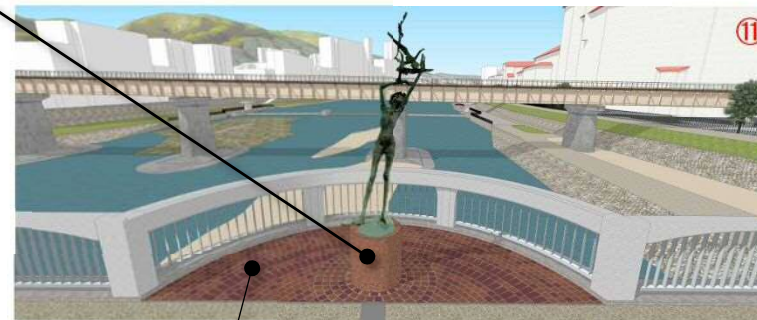
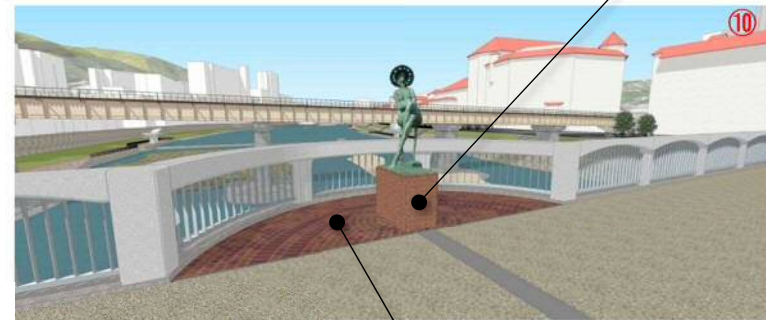
● ポイント植栽

出典：●安本祥恵『樹木とリーフで小さな庭づくり』,ナツメ社,2021  
 ●『ランドスケープデザイン No.139』,マルモ出版,2021  
 ●『ランドスケープデザイン No.133』,マルモ出版,2020  
 ●『ランドスケープデザイン No.125』,マルモ出版,2019

【彫刻台座】  
赤御影調を基本に製作



従前の台座

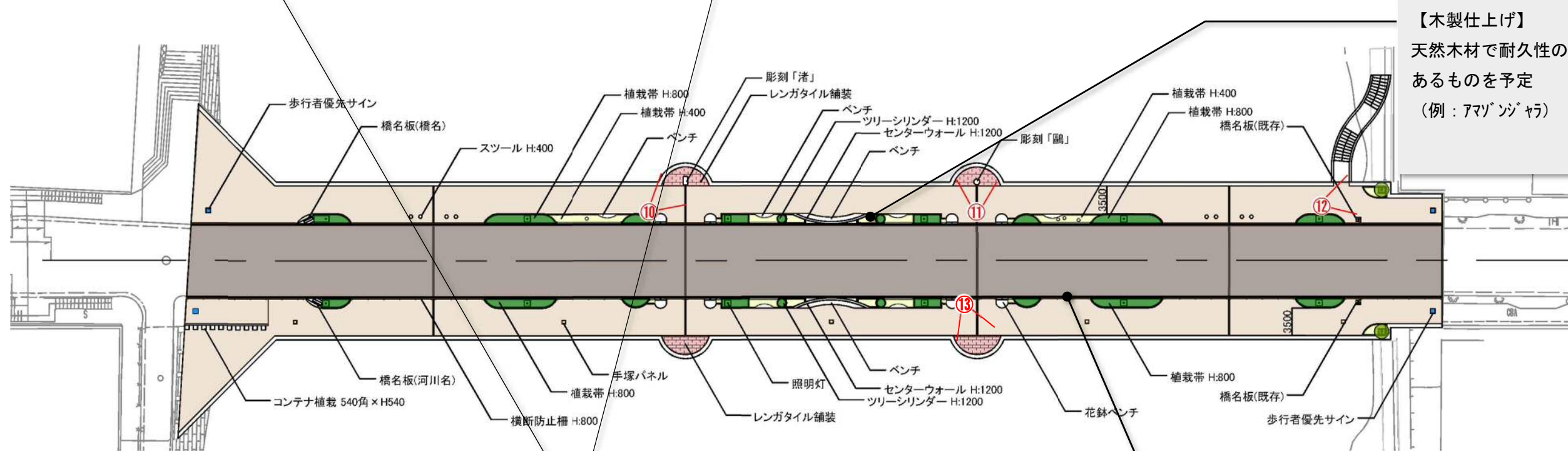


【橋詰め部植栽】  
中木 (H2.5m程度) とし、  
市木であるヤマボウシを予定

【植栽帯等の壁面仕上げ】  
花崗岩 桜系  
パーナー仕上げ  
(板石貼り+笠石)



【木製仕上げ】  
天然木材で耐久性の  
あるものを予定  
(例：アマゾンジャラ)



【アルコーブ部舗装】  
従前のレンガタイル舗装と同パターンで再現



従前の舗装



【横断防止柵】  
高欄、大劇場の窓、既存柵と  
同様の上に凸の曲線ラインで  
統一  
(色はダークブラウン、鋼製)

